

雑穀栽培のポイント

雑穀の栽培は今まではほとんどが手作業でした。RI では生産者の方々と省力化の体系を確立できるよう、播種、除草、刈り取り、乾燥などの機械化に向けて、量産できるよう取り組んでいます。栽培体系が確立していない作物を作る為にはさまざまな試行錯誤が必要となります。

雑穀栽培の...収穫機・コンバインは、

例えば、蕎麦の収穫産地で日本一の北海道 幌加内では欧米製のニューフォランド PX-34という長さ10m × 横6m × 高さ5mの巨大なコンバインで、雑穀畑5ha(東京ドーム1個分)を1日で収穫します。大量に一度に刈り取ることでコストを抑え、量産体制を取っています。

播種

大豆用ごんべい播種機、麦用播種機、ドリルシーダーなどを改良しながら行っています。きび、あわの種子は、大豆や麦などとくらべ、約1mmと小さく、各機械の種子箱(種子が圃場に落ちる部分)の穴から必要以上に落ちないように、穴の部分小さくし工夫しています。

除草

できるだけ除草剤を使わないように、中耕培土(茎根本への土寄せの時に草も刈る)をトラクターで行っていますが、きび、あわは草に負け易いので、現状では、除草剤の使用もやむをえない場合もあります。

刈り取り

麦、そばの収穫機の汎用コンバイン、大豆用コンバイン、稲用の自立型コンバインなどに手を加えています。コンバインは風によりゴミなどを選別しますが、小粒で風により飛ばされないよう、回転板を自ら調整して対応しています。

乾燥

今までは、天日干し(手でゴザに並べて自然乾燥)で行っていました。

そば、大豆などを乾燥する機械で、同機内部の網を変えることや搬送する回転を落したりして対応しています。

また、外食産業、パン、お菓子の原材料として使いやすいよう、アルファ化の粒、粉を7月発売に向け開発をすすめ、更なる雑穀の普及を目指しております。

来週のR.Iレポートは、「米国2003年FMIの報告」です。6/16のお届けです。

7月よりe-mailでの発信も予定しております。ご希望の方はチェックしてご返信ください

不要の方はチェックしてご返信ください。

FAX 058-252-5115 TEL _____

御社名 _____

担当様 _____

e-mailアドレス _____